

平成26年度文部科学省指定 スーパーグローバルハイスクール（5年間指定）

## 2015 SGH通信

【2年生配布用】

No21 岐阜県立大垣北高等学校 SGH 推進部

## 学年プレゼン発表会に向けての日程・内容

	「課題研究2」実施日時	学 習 内 容	実施場所等
	11月11日(水) 1時間	■プレゼンテーション講演会(50分間×2回) 演題「聴き手の共感を得るプレゼンテーション」 講師 京都造形芸術大学 吉田大作 先生	ゼミナール室 2時限目・4クラス 3時限目・4クラス
	11月11日(水) 1時間	■各自、フォーマットに従ってPPTの作成	PC室使用(クラス単位)
A	11月18日(水) 2時間	■各自、フォーマットに従ってPPTの作成	PC室使用(クラス単位)
		■各自、次週の発表に向けた原稿作成及び練習	PC室使用(クラス単位)
B	11月25日(水) 2時間	■(20分間)各自準備	PC室使用(ゼミ単位)
		■(80分間)ゼミ単位での発表会 →教員・生徒によるルーブリック評価 →各ゼミの代表者の選出	1・2限目=2・3組 3・4限目=1・5組 5・6限目=7・8組 24日(火)=4・6組★
C	12月2日(水) 2時間	■(100分間)各ゼミ代表者による領域別発表会 →12月11日(金)の発表者決定 (パワポ8名、ポスター48名)	PC室等(6会場で実施) 3・4限目=理系クラス 5・6限目=文系クラス
D	12月2日(水) 放課後	■プレゼンテーション代表者指導(2時間) 講師 京都造形芸術大学 吉田大作 先生 目的 12月11日(金)発表者への個別指導	PC室使用
E	12月11日(金) 3・4限目	■3限目 ◇ホールでのプレゼン発表(4名) 【環境エネルギー・国際医療】 ◇ホワイエでのポスター発表(24名) 【国際開発・国際ビジネス・比較教育】	中川ふれあいセンター 3階ホール&ホワイエ ★発表者合計(56名) プレゼン発表者(8名)
		■4限目 3限目と逆パターンで実施 ★優秀者は後日発表し、表彰を行う。	ポスター発表者(48名)

## A “プレゼンの鬼” 吉田大作先生からメールが届きました！(講演翌日の12日早朝)

おはようございます。京都造形芸術大学の吉田です。

さて、昨日講演終了後は、生徒のみなさんや先生方に混乱は生じませんでしたでしょうか？

繰り返しとなりますが、

ぜひ、「発表」という形式に目を向けるのではなく、「終わったあとに、何を一番気づかせたいのか。何を一番残したいのか。どういう気持ちになってほしいのか」という「狙い（着地点）」を明確にすることがプレゼンテーションでは重要になることを皆さんで共有化しましょう。

すると、

1. 自分の持っている情報（カード）の何を、どのような順番で伝えれば良いのかを検討する。
2. その過程で、自分の情報収集が十分か、内容を自分が十分理解できているかが明らかになる。
3. 自分が理解していることと、それを伝えたい人との間にある理解度の差を想像し、相手の思考を想像しながら組み立てをする。

という要素が自然と形成されていきます。

これができると、「論理的思考力 ・ 探究力 ・ コミュニケーション力」など、これから本当に必要な力が「プレゼンテーション」を契機に形成されると私は考えています。

（中略）

次は、12月2日にお会いできることを楽しみにしております。

## B 【第一次選考】

11月25日（水）は、PC室において各ゼミから1名の代表者を選出します。評価者はゼミの皆さんです。ループリック評価によって選考しますので、PPTの作成時から評価項目を意識してくださいね。



【H27.3.英語プレゼン発表会】

## C 【第二次選考】

12月2日（水）は、ゼミ代表者による領域ごとの発表会となります。ゼミ室・PC室など特別教室棟の各教室に分かれて、合計8名のプレゼン発表者と48名のポスター発表者を選抜します。こちらも皆さんが評価者となります。領域担当の先生の評価も加味して代表者を決定します。

## D 【吉田先生からの個別レッスン】

12月2日の放課後、京都から吉田先生に再びご来校いただき、11日（金）の学年発表会でのプレゼン発表者8名に対する特別指導をしていただきます。全国的に評価されている指導者の直接指導を仰げるビッグチャンスです。是非、8名の枠を目指して頑張りましょう！ なお、希望者には当日参観を可とします。



【H27.11.11 吉田大作先生講演会】

## E 【学年発表会】



12月11日（金）は、他のSGH校の先生方や大学の先生方も、君たちの発表会の様子を参観されます。発表者に選ばれた皆さんは、2年間の学習成果を「相手（聴き手）の気持ちを考えながら」精いっぱいプレゼンしてください。一方、聴き手（評価者）の皆さんは、質問できるような聞き方で自らの成長を図ってください。プレゼン発表後に共感が生まれることと、活発なやり取りが展開されることを期待しています。